

## 第 27 期第 6 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 平成 28 年 4 月 28 日（木）14 時 30 分～16 時 30 分  
仙台市役所本庁舎 2 階第 4 委員会室
- ◎ 出席委員の氏名 石川俊樹委員、遠藤仁委員、小岩孝子委員、  
今野広元委員、坂田邦子委員、佐藤英博委員、  
高橋隆子委員、中山聖子委員、村上かずひこ委員、  
横山祐子委員、渡辺通子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 村上佳子、市民図書館副館長 高橋泰、  
宮城野図書館長 渡辺敏光、若林図書館長 岡崎修子、  
太白図書館長 福井健司、泉図書館長 石垣伸樹、  
広瀬図書館長 高坂節子、榴岡図書館長 中里省一、  
市民図書館企画運営係長 佐竹幸成、  
市民図書館奉仕整理係長 山田千恵美、  
市民図書館企画運営係主査 松原佐重子、富田直美
- ◎ 会議の概要
- 1 開 会
  - 2 石川委員就任挨拶  
会長挨拶  
館長挨拶・職員紹介
  - 3 議長の選出  
仙台市図書館条例施行規則第 14 条第 3 項に基づき、遠藤仁会長が議長となった。
  - 4 会議録署名委員指名  
会長より、佐藤英博委員を指名。
  - 5 報告事項  
(1) 平成 28 年度仙台市図書館予算概要について  
市民図書館副館長より、資料 1 に基づき説明。  
〔委員からの主な質問・意見〕  
村上かずひこ委員  
報告のあった予算額の中には指定管理料も計上されているのか。  
事務局  
指定管理各館の運営管理費予算に含まれている。  
村上かずひこ委員  
資料購入費が約 1 億 5 千万円とのことだが、他の政令指定都市も含め市民一人当たりの金額を教えてください。  
事務局  
資料 6（参考 1）にも記載のとおり、市民一人当たりの資料費は仙台市が 139 円、

政令指定都市平均が 109 円となっており平均を上回っている。人口が多くなると人口当たりの金額は下がる傾向があり、全国平均では 200 円を超え、宮城県内市町村の平均も 150 円を超えていたかと思う。

## (2) 平成 27 年度蔵書点検結果について

市民図書館副館長より、資料 2 に基づき説明。

[委員からの主な質問・意見]

議長

泉図書館の不明率が極めて低い理由は何か。

事務局

泉図書館には本館の他に 9 つの分室があり、分室は隔年で蔵書点検を行っている。平成 27 年度は分室の点検を行わない年であり、そういったことも影響しているのではないかと思われる。

## (3) 平成 27 年度仙台市図書館利用者アンケート集計結果

## (4) 平成 27 年度仙台市図書館利用者懇談会実施報告

市民図書館副館長より、資料 3・4 に基づき説明。

[委員からの主な質問・意見]

議長

アンケートについては、前回速報での報告があったが、今回は詳細な報告があった。ただいまの報告に皆さんから質問・意見はないか。

横山祐子委員

商用データベースは、「利用しない」「知らない」で 6 割を占めており、認知度の低さによるのだろうが、予算をかけているものであり問題だ。どのような内容のデータベースがあり、どのように周知しているのか。また、どのような層を利用者として想定しているのか。

事務局

河北新報データベース、ジャパンナレッジ、日本法情報検索サービス、日経テレコン 21 等を提供している。河北新報データベースは全館で閲覧できるが、他は閲覧できる館が限られている。新聞の閲覧台上にデータベースの利用を呼び掛ける表示をしたり、データベースを利用して自分史を作る講座を開催したりして周知を図っているが、現物資料の方が良いという人が多い。レファレンスで調べる際は有効な手段となっており、便利なものだがなかなか浸透しない。対象は、一般・学生を想定している。

横山祐子委員

大学の状況はどうか。

議長

宮城教育大学の図書館でも同様だ。予算の関係もありデータベースを充実させることが難しくなっている。様々なメディアの特性や活用法を周知していくことは、一般

市民に対してばかりではなく大学生に対しても大きな課題だ。講座等の場を活用して便利さを周知し、少しずつでもユーザーを増やしていくほかないのではないか。

小岩孝子委員

自由記述一覧に記載されている要望や意見に対して、どのような形で答えているのか。回答してくれた方たちにアンケート結果をどう生かしていくのか示す必要がある。

事務局

アンケート結果をもとに各館で改善に取り組み、翌年のアンケート実施時に、前回の結果を受けた改善事例を館内掲示しホームページにも掲載しているが、全ての要望等に回答するのは難しい。

小岩孝子委員

いただいた意見に対し、一部でもこのように対応したという回答があれば、きちんと耳を傾けてくれるということで利用者も納得できる。

佐藤英博委員

資料3（参考2）のアンケート集計数で、館ごと日ごとにばらつきがみられるが、アンケート2週目の土日に泉図書館が急激に増加した理由は何か。

事務局

1週目はアンケート用紙を平台に乗せ回答をお願いしていたが、回収数が伸びなかったため、2週目から窓口でアンケート用紙を手渡ししてお願いするようにしたため。

佐藤英博委員

他館でも同様な工夫をするなど次年度に生かしてほしい。

坂田邦子委員

商用データベースやレファレンスサービスのPR不足についてここ何年か問題としているが、目標値が達成できないと予算が削減され撤去されることになるなど、どうしても利用率を上げなければならない理由があるのか。

事務局

必ずしもそうではない。必要としない人にまで無理に利用させようというものではない。

議長

資料は持ち帰って自由記述や統計数字などもゆっくり見て、何か気付いた点があれば次回以降でもよいので意見や質問を出してほしい。

#### **（5）平成28年度仙台市図書館運営方針・事業計画**

市民図書館副館長より、資料5に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

今野広元委員

3ページ「方向性2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館」の「施策（2）どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします」の新規事業として、「市民センターとの連携による図書サービス拡充方策について関係部署と協議・検討

を行う」とあるが、関係部署とはどこか。

事務局

市民センターのほか、教育局総務課、市民センターを所管する市民局、財政局、仙台ひと・まち交流財団などである。

今野広元委員

検討した結果、「どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実」にどのようにつながっていくのか。

事務局

現行の「仙台市図書館振興計画」の中で、市民センターで蔵書検索や予約、図書の受取・返却ができるようにしているが実現できていないので、何らかの前進できるよう関係部署と調整を進めたいということで今年度の事業計画にも入れたもの。

今野広元委員

「何らか」とは何なのか重要な気がするが。

事務局

市民センターをサービスポイントとして利用できるようにするには、人の配置、図書館システムや物流等、予算措置や人員措置等の必要な事柄についての調整をどれだけ進められるかが課題。次の「6 協議事項」で委員のご意見をいただきたい。

## 6 協議事項

### (1)「仙台市図書館振興計画」について

市民図書館副館長より、資料6に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

基本的には次期計画でも現行計画の4つの柱を踏襲するという事で議論を進めてきた。これまでの議論では利用者としての視点でのご意見が多かったが、設置者側から見たご提案もぜひいただきたい。次回には骨子案が提示されるということで、自由な意見を計画に組み込めるの機会は今回までということになる。取扱いは事務局に一任させていただくが、忌憚のない意見を出してほしい。地下鉄東西線の開通で人の流れも変わった。既存施設の有効活用の説明もあった。そういったことも含め何かあるか。

事務局

資料6（参考1）のとおり、仙台市は政令指定都市の中では館数は少ない一方で、規模の大きい館が多い。地区館は充実しているが、身近なサービスポイントが不足しているとも言える。また、市民一人当たりの蔵書数や資料費は平均を上回っているが、登録者の対人口比率は10%程度と平均を大きく下回っている。大区役所制の中で図書館を整備してきた仙台市の特色あるいは問題とも言える。充実した地区館をどのように生かしていくかが課題だ。そういった背景を踏まえて今後の方向性について、議論や提案をいただきたい。

今野広元委員

仙台市は面積が広い割に館数が少ないこと、ほとんどが市街地に立地しているが認知されていないのが問題。看板や案内板等の設置を増やして存在を知らしめれば登録者数も増えるのではないかと。入りやすさや目立ちやすさも工夫してほしい。

坂田邦子委員

資料6-2の3ページに事務局提案として「専門職員の育成」とあるが、図書館員に求められる専門性とは何か、また、どのように育成していくのか。

事務局

図書館資料に関する知識等を日々の経験の中で積み上げていくことや、各種研修や他の図書館との交流等が想定されるが、どのような育成の仕方が考えられるかについても、ぜひご提案いただきたい。

坂田邦子委員

通常は、求められる専門性をどのように身に付けるのか。

事務局

司書資格だけでなく、日々の業務の中での経験や研鑽が大きい。専門性を高めるため、レファレンス研修や国立国会図書館から講師を招いて研修等も実施しているが、さらに育成に力を入れる必要があると考えている。

議長

仙台市では司書卒の採用はなかったと記憶しているが。

事務局

そのとおり。

議長

図書館は快適な居場所として足を向けてもらうことも重要だ。宮城教育大学図書館では、快適な居場所作りに力を入れて立ち寄る学生が増えたが、今年度の貸出冊数は微減となった。授業と関連付けて参考書の企画展示等を行うと貸出数が増加するので色々工夫しているが、居場所としての快適さと貸出数は必ずしも結びつかないようだ。

事務局

図書館利用者は利用者カードを作り本を借りる人だけではない。市民図書館では一日平均2000人から2500人の来館者のうち貸出者数は1000人前後である。

村上かずひこ委員

市民センターで貸出・返却が可能となれば理想だろうが、経費面・物理面で可能なのか。現在は図書館間のやり取りはどうしているのか。そこに市民センターも組み込むのか。

事務局

図書館間の資料配送は業者に委託して行っている。市民センターへの配送については、一度区毎に集約してから各市民センターに配送するなどの方法も考えられる。

村上かずひこ委員

従来通りの図書館の貸出形態に限らず、次世代のあり方として物流が発生しない電子図書での貸出＝配信を検討することも必要なのではないか。

事務局

札幌市など一部で実施しているところもあるが、貸出可能な電子図서가まだ少ないのが現状だ。今後の課題として検討が必要と思う。

村上かずひこ委員

子どもの居場所づくりの点からも、家庭に代わり学校教育の一環で、子どもを図書館に連れて行き利用の仕方を教えることが必要なのではないか。

高橋隆子委員

前任の八本松小学校では、1年生、3年生、5年生が太白図書館を徒歩で訪れ、バックヤード見学や職員の話聞いて、利用者カードも作るという体験をさせていた。現在の桂小学校は泉図書館まで遠いので、2年生がバスで行く予定になっている。市の教育研究会図書館部会でも近隣の公共図書館をできるだけ利用するよう促しており、利用は増えていると思う。資料6（参考1）を見ても、登録者の対人口比率10.4%のところ登録者中の児童の比率が20.5%と小学生が占める割合が比較的大きい。児童の図書館利用を更に増やしたいと考えており、1回限りにならず家族ぐるみで繰り返し通うよう図書館利用教育を進めている。

議長

休館日等、施設のあり方についての意見はないか。

村上かずひこ委員

資料6（参考1）で、さいたま市が午前9時から午後9時までと開館時間が最も長い、利用状況はどうか。

事務局

利用状況は把握していないが、近く開催される政令指定都市図書館長会議等で確認したい。

今野広元委員

午後8時の閉館が早いとは思わないが、仕事の後に返却しに行くには早い。返却ポストで24時間返せるというが、明かりが少しでも付いていれば立ち寄りやすいので、返却者向けに一部開館なども検討してはどうか。午後9時まで開館して利用が増えるかについては費用対効果の点からも疑問だ。開館時間を早める方が効果があるのではないか。

議長

東北学院大学図書館は何時まで開館しているか。宮城教育大学では以前、午後10時閉館としたが、9時を過ぎると学生が激減するので閉館時間を1時間早めた。

渡辺通子委員

泉キャンパス図書館は午後8時まで。土樋の中央図書館は午後10時まで。図書館をとりまく環境は、今後10年で劇的に変化すると見込まれる。著作権切れの図書も大幅に増えており、電子図書化もしやすくなっている。まずはアンケート結果等から、レ

ファレンス機能の質的転換をお願いしたい。力を入れてほしい取組みで「本を見つけやすい配置にしてほしい」が多いが、レファレンスサービスで救えるのではないか。図書館職員に対しどのように聞いてよいのか分からない、聞いては失礼なのではないかといった心理があるのではないか。サービスというものの捉え方を変えれば、本の貸出ばかりでない更に多様な機能を持つ場として図書館も変わっていくと思う。

坂田邦子委員

同様に、アンケート結果の力を入れてほしい取組みで「テーマ展示やおすすめ本の紹介」への要望が多いようだ。何を読みたいか分からないが図書館に行った際に、テーマ展示を見てその本を借りようと思うこともある。求めている本を見つけやすくするのも大切だが、どうすれば自分に合う本を見つけられるかということも大切だ。例えば「館長のおすすめ本」等、おすすめ本紹介のサービスを充実させることも満足につながるのではないか。

小岩孝子委員

利用が増えないのは活字離れも影響しているのではないか。運営している児童館では、乳幼児親子が集まる日にはまず読み聞かせから始める等の取組みをしている。ゼロ歳児から活字に親しむ場を作ることが大切だ。学校と図書館が連携し、子どもの興味を引くようなPRをするなど、図書館で活字離れに対しての対策を検討することも必要なのではないか。

議長

宮城教育大学でも活字離れの傾向は見られ、学生の図書購入費が月 800 円を下回ったという試算も出ている。活字への回帰は学校ばかりでなく社会的課題だ。

高橋隆子委員

本日配付された図書館レファレンス事例集「本の道案内」に目を通したが、図書館員の知識はすばらしい。アンケートには「誰に聞けばよいか分からない」という回答もあるが、利用者の様々な要望に応えるためにも、図書館には「ブックコンシェルジュ」のような本について何でも聞ける人がいるということをアピールしてはどうか。

議長

予定時間も超過してきたので、気付いた点があればメール等で事務局に送付するよう、事務局ではそういった意見等を7月の協議会で提示する骨子案に反映できるように願う。

事務局

事務局から発信するメールへの返信の形で、5月中に送付をお願いします。

## 7 その他

- (1) 「本の道案内～図書館レファレンス事例より～」 「あなたのおすすめ本を教えてください 2015」 「あかちゃんと楽しむはじめての絵本」、サミット関連資料について  
市民図書館長より説明。

(2) 次回日程について

事務局

7月下旬を予定している。日時・会場については、後日案内する。

議長

以上で議事を終了する。

## 8 閉会